



即興力!

演出とアドリブのせめぎあい

三木 映画に関していうと、アドリブはあまりやらないですね。即興的な表現をする人もいるのでしょうか。僕のスタイルにははまらない。カット割りもある程度決まっていますし、厳密にリハーサルを重ねていきます。ただ、舞台は少し趣が違います。2000年まで手がけていた「シティボーイズ・ショー」では、ネタ出しから含めて3か月くらいリハーサルをしますが、役者が舞台



の上でやっていることですから、どうしてもアドリブが出ることもある。そうすると、僕はアドリブに対して厳密なダメ出しをするんです。最後はけんかじゃないけど、役者の舞台の上での臨場感と、脚本を崩されまいとする演出家の危機感の戦いです。脚本通りにいかないなら、脚本なんて書かない、ということです。そうしない限りは、馴れ合いがその先にはあるわけですから。最終的なところでは、それを踏まえた上で、双方どう折り合いをつけていくか、か呀になります。

矢内原 ダンスの場合、しっかり構築されたものを間違えないように踊ることが基本。だから、あまり即興という意識はありません。ただ振りや間違えちゃうと、アドリブでやるしかないで

すけど(笑)。

花緑 落語は基本的に先人がつくったものを1人で演じるわけですし、創作だとしても、何度も稽古していれば型が決まってくるので、あまりアドリブが入る余地はないです。でも矢内原さんがおっしゃるように、間違えた時や忘れちゃった時は、本筋に戻るまではアドリブ中ってことになりますね。

僕はこれまでに役者としてお芝居もやらせていただいているのですが、演劇の場合、やはりアドリブを入れようとすると演出家にすごく嫌われます。特に難しいのが、笑いのシーン。先日、ある演出家に「ウケを狙ってもいいけど、ウケを狙っていることが観客にばれないようにして」と言われました。それはそうだ、と納得したんですが、

三木 シティボーイズのコントでいうと、初日にウケると、二日目に同じことをなぞりがちだったんです。でもなぞっている時点で、もう面白くない。即興はたしかに刺激的で、その場では新しいかもしれない。でも、構成された脚本を何度もなぞっても、セリフや間や表情の変化で鮮度を保ち、飽きさせずに見せるのが役者の仕事だと思えます。シティボーイズのメンバーはそのことが実によくわかっていますね。

花緑 落語も同じです。1人だから、どのように演じてもいいわけですが、お客さんのウケによって内容を変えていくと、見事にボロボロになる。そして、師匠に教わった直後、初めて高座にかけた日がいっぱい良かったと言われたりすることが、実はよくあります。落語家というのは一人だし、自由度が高くてチェックしてくれる人がいないから、



自分で手綱をつかんでないと壊れるスピードもものすごく早いかもしれないですね。あれ、なんだか即興はよくないって話になっていませんか(笑)?

三木 いや、アドリブの印象が強すぎて、確かにあると思うんです。でも演出として考えると、アドリブによって失うものも多い。本線みたいなものが見えづらくなる。そういう腹立たしい部分と、惹かれる部分があって、いつもせめぎあいですね。

花緑 矢内原さんにお聞きしたいんですけど、ダンスってどのあたりから即興というんでしょう?僕は兄(バレエダンサー・小林十市)の影響もあってクラシックバレエ、日本舞踊をやった、その後ブレイクダンスを自己流でやったり、ジャズダンスを習ったり、いろいろな踊りやってきました。一番好きなのはヒップホップ系の

ブレイクダンスで、中学生の時、剣道の稽古場でムーンウォークを練習していたんですよ。自分ではアドリブのつもりで踊っていたけれど、頭の中にはいろいろなダンスのパターンがすでに入っている。実はそれをなぞっているだけじゃないかと思って。そういうのってアドリブって言えるんでしょうか。

矢内原 アドリブだと思いますよ。通常、ダンスは構成に沿った振りがあって、流れがある程度、決まっているのですから。

三木 創造は記憶かどうかっていう議論がよくありますよね。ゼロから一を生み出しているわけではなくて、かつての経験など断片的な結びつきによって、何かを生み出しているという。たとえば黒澤明さんや山田詠美さんは記憶派だと思えます。表現するものが自分たちの経験や記憶にすごく結びついている。

矢内原 実は最近、ワークインプログレスという試みを始めたんです。11月に次の公演の演目をお客さんの前で公開しました。コアなファンが100人くらい来てくださって、公演が終わった後にメンバー全員で観客の意見を聞く時間を設けました。そうしたら、みんなすごい意見を言ってくれるんです(笑)。終わってからの意見交換の時間のほうが長いくらい。結果として最初とは全然違う作品になりましたし、いまそこで得たものを1月の公演に向けてつくりあげているところです。

花緑 率直な感想だと、お客さんの意見は当てにならないものもあると思います。僕も公演でアンケートをとるのですが、落語というの自体をよくわかっていないお客さんもいますし、こちらが混乱しては元も子もない。稽古風景を見せようものなら、ろくなことにならないような気が

写真:合巻社にて